

令和7年度 すくわく活動報告

1. 活動テーマ

ひかり(光)

<テーマの設定理由>

天気の良い日にランチルームの床に窓から入る光が虹のように映し出されることに気が付き、興味を持って探したり「どうして虹のように映るのか？」と不思議そうに考える様子が見られた。

“ひかり”は身近だが、その特徴やそれにより映し出されるもの、影について等の様々なことを試し、体験しながら興味を深めて行って欲しいと考え、このテーマに設定した。

2. 活動スケジュール

令和7年4月～令和8年2月まで

4月～8月までは講師を招き、様々な実験をしながら学んだ。

その後は活動や自由遊びの中で担任と一緒に発見や制作を楽しみながら学んでいった。

2月に「すくわく発表会」を実施。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境設定

園舎内は明るいので、より光がわかりやすいように暗幕を準備。

ライトテーブルやウォールライト、光の性質がわかりやすいような玩具や制作材料を用意し、様々な素材で気づきや実験を行った。

また光からの発展で星への興味に繋がって行ったので室内用プラネタリウムを購入した。

ライトテーブルを教室内に常備し、いつでも遊べるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

懐中電灯や自然光を使って光と影の関係を観察し、素材の違いによる光の通り方や反射を実験した。ライトテーブルで透明素材を用いた構成遊びを行い、ランタンやステンドグラスの制作にも取り組んだ。また、光の三原色や太陽・月・星について学び、年長児はプラネタリウム体験および制作活動を行った。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

一年間の活動を通して、子どもたちは光が当たると影ができること、透明な物は光を通すこと、鏡は光を跳ね返すことを体験的に知った。また、光の位置によって影の大きさや長さが変わることにも気づき、「不思議！面白いね！」「こうしたらどうなるかな？」と試しながら確かめる中で光への興味を深めていった。

ライトテーブルでは、「光取り紙」や「キャンディーシェイプ」などの透明素材を組み合わせ、重ね方や並べ方によって見え方が変わることを発見した。「重ねたら色が変わった」「こっちは黒いね」といった声も聞かれ、繰り返し試しながら遊びを広げていた。

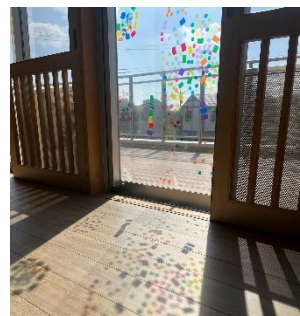
さらに、ランタンやステンドグラスを手作りする活動では、完成した作品に光を通し、その美しさに見入る姿が見られた。自分たちで作ったものが光によって輝く体験は、子どもたちの感動や達成感につながっていた。

「光って何色だと思う？」という問いかけから話し合いが広がり、“光の三原色”の話題へと発展した。普段親しんでいる“色の三原色”とは異なる組み合わせであることに驚く様子も見られ、新たな発見を楽しんでいた。

また、世界で一番明るい光は太陽であることや、夜空に光る月や星について学んだことをきっかけに、年長児はお泊まり会でプラネタリウムを体験した。その経験から自分たちでもプラネタリウムを作りたいという思いが生まれ、手作りのプラネタリウムを制作し、光の広がりや星の美しさを楽しむ姿が見られた。

子どもたちは光について発見や驚きの連続で、さらなる好奇心を常に抱くようになり、日常の中でも敏感に気が付き「なんで？」「どうしてだろう？」「〇〇なんじゃない？」と友だち同士、保育者とも一緒に考える時間が増えていった。

保育者も初めて知ることがとても多く子どもと一緒に楽しみながら実験を繰り返して行った。保護者には活動ごとに様子を配信や掲示を行い、お子さんと一緒に振り返りができるようにして行った。保護者に学んだことを嬉しそうに教えてあげる姿が印象的である。そして最後に行った「すくわく発表会」では自分たちの学んだことや作品を展示し、他クラス児や他クラスの保護者も一緒に見て楽しんでくれたことで自信にも繋がった様子だった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

一年を通して「光」をテーマに活動を行う中で、子どもたちは身近なことにも目を向けて不思議に思ったり「知りたい」「やってみたい」という探求心を持ち取り組んでいた。実際に実験をして確かめたり、素材を変えて比べて自分なりに考え試す姿が多く見られ成長を感じた。

友だちに発見を知らせたり、「どうしてだろうね」と話し合い共有しながら学びを深めて行く様子が増え、関わりも広げることができた。

活動の中で理解の難しさを感じる内容もあり、年齢に合った知らせ方の工夫が必要と感じたが、子どもたちは「理解する」よりも体験や感覚を通して楽しみながら関心を広げていた。改めて学ぶことの初めの一步が「不思議に思う気持ち」を育てることだと実感した。